

# 令和7年度第1回総合政策審議会 会議録

作成者 総合政策課 秘書政策G 主任 松澤 健人

日付	令和7年12月11日(木)	時間	午後1時55分～午後3時30分
場所	鳥山庁舎 第4会議室		
出席者	別紙「令和7年度第1回総合政策審議会 出席者一覧」のとおり。		

## 1 開会

## 2 事務局職員、審議会委員自己紹介

全出席者が自己紹介を行った。

## 3 協議事項

### (1) 会長の互選等について

#### ① 会長の互選

事務局案として中村祐司委員を会長に推薦し、委員の承認を得た。

#### ② 職務代理の指名

会長となった中村祐司委員（以下、「会長」と表記。）が、島崎委員（当日欠席）を指名した。

#### ③ 中村会長挨拶

添付の「那須烏山市総合政策審議会設置及び運営条例」を見たが、20年前に策定されている。

自身も長きにわたり那須烏山市に携わってきたが、当時は、総合計画を策定するための審議会であった。その最後の会議において、当時の委員から、計画は策定するだけではなく、進行管理を行っていくことが大切だと意見があり、条例改正が行われ、今日の総合政策審議会に繋がっている。時代を先読みした取組であったと思う。

本日は第3次総合計画が運用開始となってから初の審議会である。忌憚のない意見をお願いしたい。

### (2) 第3次総合計画の評価について

基本目標ごとに、資料「重点戦略評価シート」を基に事務局が説明を行い、質疑等を受け付けた。

#### ① 基本目標1 「未来につなぐ健やかな暮らしを支える」 質疑等

委員： 合計特殊出生率について、基準値が栃木県の数値よりも低い設定となっている。  
そこを加味して目標値を設定しているが、実績値は、県平均と比較してどうなのか。  
また、その要因分析は実施しているか。

こども課長： 調べたところ、栃木県の令和6年度合計特殊出生率の平均値は1.15であり、本市は下回っている状況である。

要因は、未婚化や経済的な事情など様々であるが、結婚から子育てに至るまでの支援を社会全体で取り組んでいくことが必要だと考えている。

委員： 全国的に共通する課題ではあると思うが、地域特有の課題や要因もあると考えている。

事務局： 合計特殊出生率について、栃木県少子化対策アドバイザーとの意見交換において、小規模自治体で目標に設定することがそぐわないとの意見をいただいた。人口規模が小さい場合、若年層の女性の転出入による合計特殊出生率への影響が大きくなる。

この点は次期計画では検討したい。

委 員： 現在こども館は、建物の老朽化で休館している。今後の方針をお聞きしたい。  
また、開園したなすからこども園の2階に設置されている子育て支援センターきらきらと、新しく整備予定のこども館との関係性についてお聞きしたい。  
公共施設再編担当課長： 新庁舎の整備検討を進める中で、1階を多世代交流施設とし、現在子育て支援センターきらきらで暫定運用しているこども館の機能を子育て支援機能として新庁舎に移転したいと考えである。こども館以外の機能は従来どおり子育て支援センターきらきらで運用していくことになると考えている。

## ② 基本目標2「未来につなぐ学びを育む」 質疑等

委 員： スーパーティーチャー育成事業について、親の立場としては、教職員全体の能力が底上げされることは安心感に繋がる。令和7年度以降の取組方針に記載のとおり進めさせていただきたい。

スーパーティーチャー事業は令和6年度までを以って「一定の成果を得られた」と記載があるが、何を以って成果の判断を行ったのか。

学校教育課： 平成28年度からスーパーティーチャー事業を開始し、視察研修に91名、講座研修に64名の参加をいただいた。本事業はリーダーの育成が目的であり、研修参加により一定の成果があったとして、方針を切り替えている。

委 員： スポーツツーリズムの取組と今後の方針についてお聞きしたい。

生涯学習課長： 国体以降はアーチェリー競技の普及を図っている。また、市内では剣道が盛んに行われている。スポーツツーリズムの取組としては、現時点でお答えできるものはない。

委 員： 以前、JR大金駅で学生の運動部員と思われる方々が降車するのを見たためお聞きした。

商工観光課長： 観光面からお答えする。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行した後、観光客入込数は復調傾向にあり、御指摘のスポーツ合宿者も増加している。このことが基本目標3の観光分野の実績値を押し上げている一つの要因である。

委 員： アーチェリーの射場の整備場所はどこを予定しているのか。

また、ナイター用照明がある鳥山運動公園が使えなくなるという噂を聞いている。  
鳥山運動公園に関する今後の方針をお聞きしたい。

生涯学習課長： 現在、生涯学習個別施設計画を策定中であり、策定後に市内各施設の運用方針を決定するため、現段階では未定である。

委 員： 全庁的に連携を図って進めていただきたい。

## ③ 基本目標3「未来につなぐ賑わいを創出する」 質疑等

会 長： 移住相談件数は少ないが、その分相談者は本気の相談であるという認識で良いか。  
事務局： そうである。

委 員： 自営業を営んでいるが、ハローワークに求人を出したとしても、若い求職者は派遣会社や人材求人系企業を閲覧する傾向にあり、なかなか応募がない。雇用対策事業の進捗状況は「遅れ」となっているが、今後の取組についてお聞きしたい。

商工観光課長： 令和6年度に厚生労働省栃木県労働局と雇用対策協定を締結した。これまで雇用対策や人材確保という面では、厚生労働省が管轄しているハローワークが主体となつて取り組んできたが、本協定により、市も一体となって取り組むこととなり、今後は様々な課が協定に基づく協議会として関係していくことになる。その中で、既存事業をより強固な連携で推進するとともに、新しい施策も打ち出したいと考えている。

委 員： 防災協定を締結している和光市や豊島区について、令和元年度東日本台風などで連携を取ったことがあるか。

総務課： 東日本大震災時に支援を受けた実績がある。

日下田委員： 移住支援事業について、メディア等で移住の話題が出る際には移住と雇用をセットで案内している。本市でも同様の提案ができているか。

商工観光課長： 先述の厚生労働省栃木県労働局との協定に基づく協議会において、移住についても併せて取り組む方針としている。

委 員： チャレンジショップ那須烏山のテナントに資金融資を行っている。創業者支援の期限を間もなく迎える出店者がいるが、移転希望の空き家の所有者からの協力が得られず、移転が進まないという話を聞いている。行政側からバックアップできないか。

また、移住支援事業の中で「手厚い住宅支援策を講じている」と記載があるが、具体的な支援の内容をお聞きしたい。

商工観光課長： 物件の悩みについては、難しい部分はある。空き店舗の情報登録提供制度を立ち上げ、運用しているが、登録できる物件がない状態であり、今後営業活動や情報収集を行っていく考えである。

また、空き家の調査を本年度行っており、その成果も今後の支援施策に生かしていきたい。

なお、チャレンジショップのテナントを出る創業者に対しては、創業補助金を交付する。

都市建設課長： 住宅支援については、住宅取得奨励金、住宅リフォーム助成金、空き家バンク住宅改修補助金等の支援を実施している。移住者は空き家バンク制度を活用して転入される方が多い状況である。

まちづくり課長： まちづくり課においては、移住ファミリ一家賃補助金により、市内の賃貸物件に移住した若年世帯等に対し家賃を一部補助している。

委 員： 知人や友人が本市に訪ねてくる際に宿泊施設が少なく、せっかく来てくれても市外に宿泊してしまう。

商工観光課長： 企業立地奨励金制度があるが、宿泊施設も対象である。誘導を図りたい考えではある。

#### ④ 基本目標4 「未来につなぐ安全・安心な暮らしを守る」 質疑等

委 員： 市内に公園が少なく、市外に行く市民が多いため、子育て世代をターゲットにした公園整備を進めていただきたい。

また、江川小学校での教員時代には江川地区の児童が遊べる場所の不足を感じていた。南那須地区においても子育て世代が交流できる場所があると良い。

都市建設課長： 清水川せせらぎ公園については、多世代において使い易い公園としての整備を進めている。本年度から整備を開始し、令和8年度には遊具等の導入を完了させ、供用を開始する予定である。

公共施設再編担当課長： 室内の遊び場が不足しているとの意見もお聞きしている。新庁舎の整備を進めていく中で、1階にこども館機能の整備を検討しているが、屋内遊具の設置も検討している。

また、新庁舎周辺には芝生張りの広場を設置することも予定している。

南那須地区においては、南那須庁舎の廃止・解体後、庁舎跡地に防災機能をもつ癒しの公園を整備することも選択肢の一つである。

#### ⑤ 基本目標5 「未来につなぐ持続可能な行財政運営を築く」 質疑等

特になし。

## ⑥ 全体質疑等

会長： コンパクトで見易い資料である。向き合い方が評価できる。

委員： 清水川せせらぎ公園の整備について、遊具の設置は令和8年度に実施予定で間違いないか。

都市建設課長： そうである。遊具は、大型のものだと複合遊具やターザンロープ、小型のものだとブランコや健康遊具等を設置する予定である。

委員： 設置予定の遊具等については市民アンケート等を実施しており、決定する前に相談していただくように担当者と調整していたのだが…。予算案が決定し、議会で議決されたということか。

都市建設課長： 大枠の予算案を組んだ段階であり、詳細の決定や発注はまだ行われていない。今後改めて協議をさせていただく。

小田戸委員： 高齢者ふれあいの里事業について、事業内容と効果、参加者の声等があればお聞きしたい。

健康福祉課長： 令和4年10月に、市内病院や介護事業所、リハビリ専門職による那須烏山市リハビリ専門職連携会が発足し、介護予防教室等に講師として参加いただいている。同会は、令和6年度にまちづくりチャレンジプロジェクト事業を活用し、市民の歌に合わせたオリジナル介護予防体操のDVDを作成した。作成に当たっては、ふれあいの里等を訪問するなどし、利用者の意見を取り入れるなど現場との連携を図ったところである。本年度は市内全地区にDVD及び解説書を配布し、リハビリ専門職が訪問して指導を行った。参加者からは好評をいただいている。

## (3) 交付金活用事業について

資料「交付金活用事業一覧」を基に事務局が説明を行い、質疑等を受け付けた。

### 質疑等

委員： デジタル関連について、交付金が廃止となったときは、事業の取捨選択が必要である。デジタル赤字という言葉も耳にする。

事務局： しばらくは名称を変え、継続はしていくと予想されるが、先を見据えて検討をしていく。

委員： 龍門ふるさと民芸館及び併設されているカフェについて、昼時にカレーが売り切れていたことがあった。集客数をきちんと見込めると良い。また、夏期は麺のメニューを提供するなど、季節ごとのメニューがあると良い。人が集うところに飲食はつきものである。滝を鑑賞する際に手持ちで食べ歩けるメニューの考案や、地元の菓子店が月替わりで出店するなど、特色を出しつつ、来訪者が楽しめる工夫ができると良い。

委員： カフェは価格が観光地価格である。市民割の検討をしてはどうか。

商工観光課長： 意見について施設と共有させていただく。

## 4 その他

特になし。

## 5 閉会

以上

## 令和7年度第1回総合政策審議会 出席者一覧

### 1 委員

氏名	分野	団体名
中村 祐司	学識経験者	宇都宮大学地域デザイン科学部
赤羽 幸雄	公募委員	
中村 泉	公募委員	
小田戸 豊行	福祉分野	社会福祉法人 那須烏山市社会福祉協議会
佐藤 篤史	商工分野	那須烏山商工会
平野 純	教育分野	塩谷南那須教育事務所
大橋 誠	まちづくり分野	なすから子結び団
高野 泰弘	金融分野	烏山信用金庫本店
和久 千香子	金融分野	足利銀行烏山支店
日下田 学	金融分野	栃木銀行烏山支店

### 2 那須烏山市役所

課局名	職名	氏名
総合政策課	参事兼課長	小原沢 一幸
	公共施設再編担当課長	関 雅人
まちづくり課	参事兼課長	大鐘 智夫
総務課	危機管理 G 課長補佐	大貫 厚
税務課	課長	川俣 謙一
市民課	課長	黒尾 明美
健康福祉課	福祉事務所長兼課長	岡 誠
こども課	課長	水上 和明
農政課	課長	小口 正一
商工観光課	課長	星 貴浩
都市建設課	課長	菊池 章夫
上下水道課	課長	石嶋 賢一
会計課	会計管理者兼課長	高田 勝
議会事務局	局長	菊地 唯一
学校教育課	総務教育 G 課長補佐	鈴木 達也
	指導支援 G 主幹	菊地 新一郎
生涯学習課	課長	塙野目 豊一

### 3 事務局（総合政策課）

職名	氏名	備考
参事兼課長	小原沢 一幸	再掲
公共施設再編担当課長	関 雅人	再掲
係長	郡司 直哉	秘書政策グループ
係長	齊藤 奈緒	秘書政策グループ
主査	伊藤 大道	秘書政策グループ
主任	松澤 健人	秘書政策グループ